



みなさん、「Grandデザイン2050」という言葉をご存知でしょうか？

これは「熊本が持続的に発展していく上で中心市街地の役割は大きく、創造的復興に向けて様々な取り組みが始まる今だからこそ、まちの理想の実現に向けて熊本のまちづくりの長期的なビジョンや戦略を描き、官民の役割や連携の必要性を自覚すべきと考え、商工会や経済同友会が協力して作成した計画です。この熊本の未来、30年、50年先を見据えたまちづくりのデザインを永続的に推し進めていく必要があります。4月の選挙では、「Grandデザイン2050（以下GD2050）の推進」をマニフェストの柱として掲げて戦いました。ここではその概要と考え方について改めて整理していきたいと思ひます。

この考え方の鍵は「**人口減少時代に熊本が生き残っていくために今後どうやって持続的に発展をしていくか**」ということ。そのことについて3つのキーワードを例に説明していきます。

**人口** 人口＝国力といわれるように、国単位でも人口は非常に重要な要素と言えます。特に重要なのが「生産年齢人口」、いわゆる「働く人の数」です。企業においては一般的に働ける人が少なくなれば売上は上げることができず衰退していきまふ。それは国や県であっても同じことです。この少子化の時代に一朝一夕に子供の数を増やしたり、他県に住んでいる方に移住してもらふのは非常に困難です。そのため昨今、観光やビジネスによって人を呼び込み、定住人口に繋げていこうと各自治体は躍起になって競合合っています。そこでGD2050では熊本城や阿蘇など国際級の観光資源を持つ強みを生かして定住人口の誘導定着をはかるための施策を掲げています。

**人材育成** 持続的な成長と活気ある熊本を創るためには「若者の地元定着」と「良質な就労の確保」が重要です。グローバル化する企業のニーズに応える知識や技能、AI（人工知能）やIoT（物のインターネット Internet of Things）など新しい技術と発想を持った人材を育成し、チャレンジ精神に富んだ若者を惹きつけるための起業・創業支援を推進していく必要があります。

**都市基盤再生** 特にヒト、モノ、カネ、情報が集まる中心市街地においてその機能を維持していくためには継続的な都市基盤（道路、鉄道、河川、上下水道、学校など）の整備・更新が必要です。高度で質の高い都市空間の形成を図るため、再開発事業の推進等を行っていかなくてはなりません。また、東京、大阪、名古屋を除く政令市で最も渋滞が深刻な熊本において公共交通機関の定時制・速時制を高めるための公共交通機能の強化が必要です。

今回は概要と考え方についてご説明しましたが今後はシリーズでこの施策についてより内容を深めて、みなさんと一緒に熊本の未来について考えていきたいと思ひます。

## しゅんぺい 0日記

4月に自分の選挙が終わり、6月は初めての県議会、そして7月は参議院選挙とあわただしい毎日過ごしています。「忙しい」と言わないよう心掛けていますが「たいが忙しかったいね」とつい言ってしまふようになります。

そんな怒涛の日々の中、いい出来事がありました。4月の選挙戦を妻のお腹の中で一緒に戦った、南部家の第一子の娘が6月に誕生しました。「自分の子は他とは比べ物にならんぐらいかわいかよ!」とよく聞いていましたが、まさに「目に入れても痛くない」というのはこのことです。あらためて妻、母の偉大さを実感させられる毎日です。

今、日本は今だから経験したことのない「超少子高齢化社会」を目の前にしています。私のように子供ができて「もっと子供が欲しいな」と思ふ方も少なくないでしょう。

しかし、経済的な問題が主となって子供を作りにくい世の中になっています。女性の社会進出、核家族、晩婚化、莫大な教育費など様々な要素が少子化の要因となっています。「子供を多く産みたくなるような社会をつくる」ことは、日本の将来を考えると最も重要かつ喫緊の課題です。しかし、なかなか効果がでていないのが現状です。

熊本は合計特殊出生率（女性が一生で産む子供の数の平均）が全国5位と他県に比べると子供を産みやすい環境にあります。だからこそ、「子育てしやすいまち」として対外的に発信し次世代への投資を拡大していくべきではないでしょうか。

子供に恥じない、かっこいいパパになるためにも、熊本の未来を考えた行動をしていかなくてはならないと強く心に決めたのでした。



## 隼平プロフィール



自宅にて（生後6か月）



小学校の運動会（小学2年）



野球少年時代（小学6年）

南部隼平（なんぶしゅんぺい）  
1985年（昭和60年）1月20日生まれ  
熊本市出身 34歳  
【資格】理学療法士・ケアマネジャー  
【趣味】野球・ゴルフ・マラソン・音楽鑑賞・読書  
【家族】ピアニストの妻 長女  
【座右の銘】全力投球  
《経歴》  
平成3年 熊本さくら幼稚園卒園  
平成9年 熊本市立託麻北小学校卒業／野球部主将  
平成12年 熊本大学附属中学校卒業／野球部主将  
平成15年 熊本県立清々堂高等学校卒業／野球部  
平成20年 川崎医療福祉大学理学療法科卒業  
平成29年 熊本機能病院退職  
平成29年 株式会社 Smart Growth 設立（人材育成コンサルタント）  
令和元年 熊本県議会議員 初当選



高校野球部メンバーと（高校3年）



春の県大会決勝にて



理学療法士時代



藤崎宮秋の例大祭にて

私は政治家とは無縁のご普通のサラリーマン家庭に育ちました。子供のころ、父や祖父はよく私の曾祖父の話をしてくれました。まだ戦後の焼け野原で何もなかった荒れた土地を耕し農家として生計を立て、地域の発展に尽くしていました。そんな苦勞人だった曾祖父は厳しい性格でありながら情に厚く、困っている方には自分のことはさておいて、周りの方を助けていたそう。自分もその話を聞いて学生の間から「いつか人のために政治家として役に立ちたい」と思ふようになりまふ。社会人になり病院で働く中、熊本地震が起こりました。昨日まで当たり前のように平和だった故郷が一夜にして激変してしまいました。その時私は「今すぐ行動を起こさなければ!」と思ひ、31歳の時にかつて抱いていた政治の世界へのチャレンジを決断しました。



令和元年4月30日より、  
県議会議員としての任期が始まりました。  
南部隼平、1年生議員として初心を忘れず、  
信念を持って行動していきます。

みなさんこんにちは。今回、南部隼平にとって初めての県政レポート「新風」をお届けします。今年4月に行われた熊本県議会議員選挙熊本市第一選挙区にて「9413」という得票を頂き、応援頂いた皆様には心から感謝申し上げます。

昨年10月に出馬表明してから約半年間は怒涛のような毎日でした。表明当初から家族は妻以外全員が反対、後援会長もみつからず、厳しい船出でした。

しかし、徐々にその輪が広がり、最後には大きな輪となって、12人中11番目で当選することができました。「千里の道も一歩から」という言葉がありますが、まさしく29歳のときに政治の世界を目指す時決めた時から志を曲げずに行動をしてきたことでスタートラインに立つことができました。

「熊本を世界で住みたいまち No.1にする」という初心を忘れず議員1年生を全力投球で駆け抜けます。

### <信条>

- 県民それぞれが「夢」を語る社会にする
- すべての人々が生き活きと仕事に励み、生活を楽しむことのできる社会をつくる
- みんなに愛され、敬意を示されるような人を育てる社会をつくる

### <政治理念>

子供には「夢」  
若者には「チャレンジ」  
高齢者には「生きがい」

すべての県民には「希望」と「安心」を与えることができる熊本にしていきたい。

### 住みやすいまち No.1の熊本

交通インフラの整備  
「スポーツ特区」の設置・新球場の建設

### 働きやすい町 No.1の熊本

若者が魅力的に感じる企業作りと農業の再興  
女性の社会進出の全面的なバックアップ

### 医療福祉 No.1の熊本

高齢者にとって生きがいのある暮らしの創出  
子育てのサービスの充実と施設、環境を整備

3つの熊本の夢の実現に向け  
チャレンジします!

## 5月9日、選挙後初めての熊本県議会臨時議会が開会されました。

県議会ではまず、自分の所属する会派を決めます。私は選挙後に自由民主党の追加公認を受けていたので、自由民主党熊本県議団に入団しました。支持して頂いた方の中には「自民党なら応援せん」といった厳しいご意見も頂いています。しかし、知名度も議員としての経験も少ない私にとっては、研鑽を積む環境が必要です。私の考える政策をできるだけ早く実現していくためにも、多彩な人材と学べる環境の整っている自民党に所属することが必要と考えての決断でした。どうかご理解頂ければと思います。

5月議会では蒲島県知事からの所信表明、今期の議長の出選等が行われました。私の議会での席は初当選かつ最も若いということで、最前列の中央となりました。私は予備校時代から話を聞くときは「どうせなら一番前に座る」という信念もっていますので、毎回緊張感のある中で話を聞くことができ非常にありがたいです。しかし、初めての議会でしたので、議長選出における採決の方法がわからず、早速先輩議員からご指導を頂きました。

6月定例議会では所属する常任委員会、特別委員会の採択が行われました。原則一人につき一つの委員会、特別委員会の所属が認めれていますが、私は「経済環境常任委員会」と「高速ネットワーク交通特別委員会」の所属となりました。この任期は1年です。任期4年間で8つの委員会を経験することができます。また、県議会では「議員連盟」という組織への所属が求められます。



通称「議連」と呼ばれていますが、例えば「観光議員連盟」「武道・スポーツ議員連盟」などそれぞれの分野での専門家の方から意見を頂いたり、業界の発展に協力したりなど活動は様々です。私はできるだけ多くの経験をするため全部で20ある議連の中で16の議連に所属することとなりました。詳細は次回以降にでもお知らせできたらと思います。

5月、6月と初めての経験づくしで戸惑う場面や新たな疑問点など多々ありましたが、議会全体の流れはある程度把握することができました。次回9月議会では一般質問の機会を頂いていますので、是非皆様ご期待頂ければと思います。